

令和8年熊本地震の被災地支援に係る保健師等派遣出発式

日時：令和8年8月1日（土）

10:30～10:40

場所：県庁本館入口前

保健福祉課長：

ただ今から、令和8年熊本地震の被災地支援活動に係る保健師等派遣出発式を開催します。

初めに、派遣職員の紹介をさせていただきます。今回派遣する職員は、西条保健所企画課高畠由紀係長、今治保健所企画課吉田雅美係長、西条保健所企画課藤井太郎主幹、以上の合計3名です。

続きまして、中村知事から激励の言葉があります。

中村知事：

大変大きな被害が熊本で発生しています。亡くなられた方の御冥福をお祈りいたしますとともに、今なお、避難所等々で厳しい生活を強いられている被災者の皆さんにお見舞い申し上げたいと思います。

初期段階は、近隣の都道府県を中心に応援体制が組まれていましたけれども、それだけでは到底対応できる規模ではないということで、ある段階から全国的な支援の輪が求められることは間違いないと感じていました。

その時に備えて各部署では、速やかに動ける体制をとっていただいていたところでもありますけれども、昨日は、氷川町の避難所の運営を愛媛県の方でやってもらいたいという国からの要請、そして、災害対策本部への派遣、即日派遣をさせていただきました。昨日、また新たに、保健師の皆さんの対応が必要になったということで、これまで同じように九州各地からの支援に留まっていたのですが、九州以外からもぜひ手を挙げてほしいということなので、実は九州以外で保健師さんが入るのは愛媛県が初めてのことになります。全国で初めての任務を負って愛媛県を代表して皆さんに行ってもらおうということになりました。

八代市と氷川町が管轄の保健所と聞いていますけれども、皆さんの場合は、各避難所を回ったり、あるいは場合によっては、個別で家屋を回ったりという作業が必要になってくると思います。となると、新聞等々でありますけれども、熱中症対策や車中泊のエコノミークラス症候群への対応が非常に重要になっているという記事も見ましたので、まさに皆さんが人々の健康を守るという観点から、専門知識を生かすときではなかろうかというふうに思

います。

熊本県からは、西日本豪雨災害の時に、延べ人数で1,800人を超える応援をいただきました。そのことを胸に刻んで、皆さん、愛媛県を代表して、御苦勞をかけますけれども、活躍をしていただきたいというふうに思います。

順次、明日からは、精神科医の先生も、そして保健師の皆さんも第6班まで派遣体制を組んでいきますので、その先陣を切って愛媛県を代表して頑張ってきてください。皆さん、それぞれの体調にも十分気を付けてください。ありがとうございます。

保健福祉課長：

ありがとうございました。それでは出発にあたりまして決意表明を行っていただきます。西条保健所企画課高畠係長、お願いします。

高畠係長：

ただ今、中村知事より激励の言葉をいただき、身の引き締まる思いでいます。

私たち3名は、これから熊本県へ赴き、避難所において健康管理支援を行うほか、在宅の要支援者への家庭訪問を行います。西日本豪雨災害の際には、熊本の皆様から温かい御支援をいただき、「恩返し」の気持ちを胸に、突然の災害により心身ともに深く傷つかれた被災者の皆様に寄り添い、一人でも多くの方の支えになれるよう、全力を尽くしてまいりたいと思います。

本日はありがとうございました。

保健福祉課長：

ありがとうございました。それでは派遣職員が出発します。